

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171800408		
法人名	特定非営利活動法人グッドサポート福祉会		
事業所名	グループホーム小春日和		
所在地	土岐市泉町河合 2 1 7 番地 (電話) 0572-53-3051		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町 3 丁目 7 番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年11月2日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 25 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000~60,000 円	その他の経費(月額)	12,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 25 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	0 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 80.6 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島医院 阿部歯科医院 高井病院訪問看護
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームは国道沿いではあるが、周辺の環境は緑に囲まれた住宅街で、地域の人と触れ合え、地域の中で生活していることが感じられる場所である。建物は昔ながらの民家を改修した生活感あふれる建物で、換気や採光には工夫があり、居心地よさを追及している。一人ひとりの思いを尊重し、できることへの支援を積み重ね、改修や工夫が行われている。職員も経営者の理念を理解し、共有してケアに反映している。家庭的な暖かいほっとした気持ちになれるところである。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>特に改善すべき点はない。管理者及び職員が一体となって前年度の評価を活かし、自己評価に加えて外部評価の内容をを再確認することで具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価を、サービスの向上のためにと捉えて取り組んでいる。外部評価の意見は真摯に受け止め改善に向ける姿勢にある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>地域との関わりや行政との協働作業において、運営推進会議では積極的理解し推進に提案や意見を受け入れ、会議を有効に活用している。市が主催する認知症理解推進のキャラバンメイトや福祉計画策定委員などに貢献している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族への報告・連絡・相談を毎月のお知らせや面会時に出来るだけ伝え・聞くという姿勢で対応している。利用者の状況が良く分かる報告、家族から言いやすい雰囲気づくりに努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>経営者はホーム開設以前から福祉活動に熱心で、ホームと地域は良好な関係が築かれている。日常の地道な活動の連続のなかで地域住民との連携を強化している。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係をうたった独自の「自然やまちの人の力を借りて笑顔の小春日和に」という項目を理念の一つとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時は必ず理念を伝え、事務室やホールに掲示している。管理者とケアマネジャーは日々の介護の中で理念を職員に話している。月1回の会議でも話題にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時、地域住民に草刈りなどの作業を協力してもらった。毎日の散歩や、回覧板をまわす機会に挨拶をし、近所の人々が気軽に花や野菜を持って来てくれるなどの関係がある。自治会に加入し、老人会・子ども会の運営会議に参加し、地域行事に共に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価を活かし、閉じこもりの予防、自分で買い物をしたい要望に対応する、外出の機会や行事の増加を図るなど改善している。評価を前向きに捉え、ケアの向上のために取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの課題の報告や話し合い、参加者からの提案に基づき老人会・子ども会の参加を呼びかけ、協力して祭りを企画するなどしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の企画行事に、ホームで持っている認知症に関するビデオを提供した。管理者は認知症理解推進のキャラバンメイトや市地域福祉計画策定委員を務め、協力し合っている。成年後見センターとの連携も出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	細かなことでも随時電話で報告・連絡・相談に努めている。毎月の請求書と共に近況を写真や本人の作品、近況報告を送っている。面会時に職員の異動等について説明するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時、面会時、運営推進会議において積極的に意見を聞くようにしている。管理者は面会時には出来るだけ家族と面談するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任の職員は、他の職員と一緒に対応し、早く馴染めるように配慮している。管理者は離職は最小限に抑えるよう、職員の要望意見を聞くようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の必要性をよく理解していて研修を出来るだけ受けるように勧め、研修へ参加しやすいよう休みや参加費等の配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近在のグループホーム間での研修会や互いに訪問しあうなどの交流をして、サービス向上に繋げようとしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり、出来るだけ足を運んでもらったり、職員が訪問したり馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に「してあげる介護から、生きることへの支援を」と掲げ、介護される一方の立場におかず共に支えあうよう意識して取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉や表情、動きから真意を推し量り、介護日誌へ記録するセンター方式を利用し、意識して本人の思いを把握するようにしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>必要な関係者から情報収集をしている。利用者家族とよく話し合って介護計画を立案している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>居室担当者を決めて担当者が利用者家族から把握するようにしている。ケア会議で毎月意見交換をし、見直している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>透析治療の方、歯科訪問診察など関係病院との連携を強めている。夫婦同室利用（自主サービスを含む）への対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門病院への定期受診、かかりつけ医の往診、歯科訪問診察など、一人ひとりに必要な形で医療連携をとっている。家族が連れて行けないときは職員が代行して付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に応じ家族や主治医と話し合っ出来る限りでの対応に努め、職員間で方針を共有している。重度化対応終末期ケア等の対応指針を策定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のみに聞こえるような声かけをして身なりを直すなどの対応が出来ている。個人情報への配慮がなされている。個人の誇りを傷つけない対応を職員間で徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの状態その日の体調に合わせて配慮しながら日常を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事などにあわせたメニューも取り入れている。職員が同じ食事を同じ場所で一緒に食べている。暖かな食事風景だった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきに入浴が出来、希望者には毎日でも対応できる。入浴拒否の方には、本人の調子を見ながら入れる時間に入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの状況に合わせて庭での運動、野菜づくり、家事など、出来ることを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出予定表を作り、職員が企画して楽しめるよう取り組んでいる。日常的に散歩、回覧板をまわすなど気軽に外出が出来る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室玄関は施錠していない。自由に庭へ出ることが出来る。国道が近いことから危険への配慮として門扉には施錠している。外出時は職員がついて行くようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、非常通報避難経路の確認を定期的に行っている。運営推進会議を通じ地域への働きかけを行っている。近所の代表の方に非常時に備えて門扉の鍵を預けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量をチェックして記録している。夜間水分補給できるようペットボトルを一人ひとりに枕元に用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感季節感写真や絵手紙などの飾り。ベランダや庭のベンチなど居心地よさを求めて配慮している。換気や温度調整も配慮して対応できている。窓や障子などが多く対応しやすさがある。暮らしの場所としての居心地よさがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みと必要性に応じ、畳の部屋、床の部屋がある。なじみの家具が持ち込まれ、一人ひとりの個性が現れた居室になっている。なじみの品を出来るだけ持ち込んでもらうよう働きかけている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。